

ま ち の 話 題

豊岡

夏のふれあい夜市 あつ〜い夏

歩行者天国で夕涼み

7月20日・27日の2日間、夏のふれあい夜市が、豊岡駅通りを歩行者天国にして開催されました。

これは、豊岡駅通商店街振興組合によるイベントで、地域の活性化を目的に毎年行われているものです。

当日は、「ショーアンドショー」をテーマにした、ダンスや音楽のショー、ライブ演奏、フリーマーケットなどが、通り一帯で繰り広げられ、大勢の人でにぎわっていました。

また、子どもたちは、輪投げやバルーンアートなどのゲームで遊ぶなど、楽しい夏休みの思い出の1ページを作っていました。



▲子どもたちに大人気だったバルーン人形づくり

城崎

城崎温泉夏物語

夜空を彩る花火を見ながら にぎわう城崎のまち

城崎温泉では、「城崎温泉夏物語」と題して、7月20日から8月29日まで、41日間連続して多彩なイベントが繰り広げられています。

四所神社境内の夢ひろばでは、紙芝居、パフォーマンスショー、ライブなどが行われ、毎週火・木曜日には、花火が打ち上げられています。

8月4日には、今年で30回目となる「ふるさと祭り」が行われ、城崎温泉では、この日をゆかたの日として、市民や観光客などに「ゆかたを着よう」と呼びかけ、大谿川沿いの通りは、ゆかた姿の人たちでいっぱいになりました。また、午後9時からは花火大会が行われ、約750発の花火が夜空を彩っていました。



▲城崎温泉の夏の夜空を彩った「ふるさと祭り」の花火大会

竹野

灯籠流し 川面に揺らめく

幽玄の灯かり

8月16日、竹野地域の夏の風物詩「灯籠流し」が竹野川で行われました。これは、盆に迎えた精霊を再び送り届ける行事で、当地域では5年前から行われています。

日が沈むと、周辺地域からの家族連れが三々五々、竹野新橋近くの河川敷に集まり、灯籠にご先祖や逝った人への供養の思いを書いて、そっと手を合わせそれぞれ川へ流していました。

川面には、約300個の灯籠がゆったりとゆらめき、参加者は、静かに流れ行く灯籠を見送りながら、行く夏を名残惜しんでいます。



▲ゆらゆらと揺れながら川を下っていく灯籠

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報係までご連絡ください。



▲一生懸命ペダルをこいで坂道を登る子どもたち。行く先々では川遊びや海水浴なども体験した

日高

「植村直己に学ぶ」サバイバル体験教室 自転車でも馬1周 250キロメートルを走破

「植村直己に学ぶ」サバイバル体験教室が、7月

22日から29日まで7泊8日の日程で開催されました。

今回は、但馬在住の小学生31人が、自転車でも馬1周に挑戦。植村直己冒険館を出発し、香美町から竹野、京丹後市、但東などを経て再び冒険館に戻り、約250キロメートルの行程を走破しました。冒険中、子どもたちは、テント設置や食事作りなど身の回りのことを各自でこなし、自立心を養っていました。

初めて参加した日高小学校4年生の木村舞衣さんは、「最初は火が怖くて食事づくりに苦労しましたが、完走できてとてもうれしいです」と日焼けした顔で答えていました。

出石

寺坂小学校親子キャンプ

わくわくドキドキ体験



▲「楽しい」「気持ちいい」と元気な声をあげながら、いかだ下りを楽しむ子どもたち

7月29日から30日にかけて、1泊2日の親子キャンプが寺坂小学校周辺で行われました。

あいにくの雨模様となりましたが、子どもたち35人はライフジャケットを着用して、タイヤチューブと板で作られた手製のいかだに乗り、出石川下りをしました。

また、親子で作ったカレーを食べたり、キャンプファイヤーをみんなで作って花火をしたりして楽しみました。

同校6年生の大谷亜紀さんは、「いかだ下りでは、水が少し冷たかったけど楽しかったです。小学校生活最後の年のいい思い出になりました」と大満足の様子でした。

但東

子どもの野生復帰大作戦・ 但東サマーキャンプ

子どもたちの野生復帰大作戦・但東サマーキャンプ

8月8日、但東町栗尾地区内の休耕田で子どもの野生復帰大作戦・但東サマーキャンプの「どろんこ遊び」が開催され、市内の小学生ら約40人が参加しました。

約10メートル先に立てられた棒を奪い合う「どろんこフラッグ」や直径1・5メートルの円台で相撲を取る「どろんこ相撲」などが行われ、子どもたちは、全身泥だらけになりながらもにぎやかに楽しんでいました。

参加した福住小学校5年生の河谷大地くんは「初めて田んぼの中で泥遊びをしてヌルヌルだったけど楽しかったです」と泥だらけの顔で話していました。



▲全身泥だらけになりながら棒を奪い合う子どもたち